音刺激に関する設定変更に関する検討

パラメータ変更による音刺激の可能性

◎小野 誠司 1)
北海道医療大学 1)

【はじめに】以前にも当学会において過大音の出力に関して発表させていただいたが、機器メーカーに直接現在の音刺激を大きくすることに関して尋ねたところ、機器の現在の状況が許可されている最大であり、これ以上は JIS の認可上不可能と告げられたため、再度、音刺激に関して検討を重ねてみようと考えた。
以前の実施方法を再考しさらなる検査音のバリエーションが増えることも検査時のアプローチとして考えてもらえることにつながるようにも思えた。
【方法】使用機器日本光電製誘発筋電計 MEB2308 ニューロパック X1 を使用し、音刺激のパラメータを調整することで、新たな音出力方法に関して検討した。
通常ではクリック音で出力形式を ALT にして終了するのが通常と思われるが、設定の中に二つの出力選択があり、一つ一つに別な設定が可能であるため、この機能を利用することで、少し複雑な音出力の設定が可能となる。トリガー設定を調整することで最初に出た音からどのくらいズレたタイミングで二つ目の音出力が出るかや、擬似的に過大音を生み出したりといった通常の使用では得られない音出力を可能とすることができる。過大音に関しては、機器の使用限界を超えるとも思われるため、使用するのは控えた方が良いとも考えられるが、機器の性能劣化を覚悟の上で、どうしても必要と考えられる場合にはそういった方法が存在することを知っているのは心強いとも感じる。今回、通常利用される 80dB や 90dB といった刺激音圧を今回の方法で行ってみてデータ計測し比較した。
【結果】被験者に通常の ALT クリック音と今回の検討音との体感に関して尋ねたところ、変化は感じないとの事であった。実際の　ABR の反応を確認してみてもクリック音も検討音も同等の結果となった
【考察】今回試した方法は多くのバリエーションを発生させることにも繋がるように感じており、この方法をさらに検討することで機器から生み出せる音に関してより多くの選択肢が増えることが神経反応に関してもさらなる評価などに発展があればとも考えている。
連絡先ー（０１１）778-8931